平成25年度のＣＳアンケート結果から

ＣＳ会長
坂野慎二

ＣＳ（学校運営協議会）が毎年 11 月に行っている生徒アンケート結果がまとまりましたのでお知らせします。

今年度は、井草中がＣＳとなって７年目です。委員の任期は２年なので、今期は４期目となります。今回は、委員の交代に合わせて、質問項目を精査し、生徒の負担を軽減するとともに、質問の内容がよりわかりやすくなるように、幾つかの質問項目の文言を修正致しました。このため、単純に前年度と比較をすることができない箇所があります。質問は 25 問あり、生徒がどのような関心をもち、行動をしているのかを尋ねる内容です。

今回の結果を過去５年間のデータと比較すると、多くの回答結果は、多少の良い悪いはあるにせよ、これまでの回答結果にみられる幅の中に入っていることがわかります。

そうした中で、これまでで最も数値が良かったのは、「８　授業では、積極的に自分の意見をまとめて発表している」の項目です（表を参照ください）。過去５年間では「あてはまる」及び「どちらかといえばあてはまる」の合計が 37.0%から 46.6%でしたが、今年度は 50.5%と過半数をこえています。しかも１年生 37.0%→２年生 53.8%→３年生 58.3%、というように、学年が上昇するに従ってこの数値が高くなっています。新しい学習指導要領において重視されている「言語活動の充実」を意識した授業方法を、先生方が工夫されている成果の一端といえるでしょう。また、「19　先生との関係で悩みがある」という質問でも、悩みがあると回答する生徒の割合は、過去５年と比較しても、最も低い数値となっています（今年度 15.5%、これまでは 16.5%から 17.6%）。

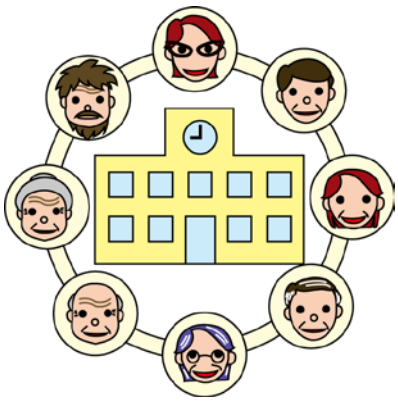
一方で、ちょっと心配な項目もあります。「21　学校に生きたくないと思うことがある」という質問に、全体で 38.2%の生徒が「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」と回答しています。過去５年間は、29.2%から 32.9%だったので、これまでで最も高い数値になっています。アンケートでは、直前の出来事等によって回答が変化することがあるため、何が要因であったのかを探っています。

こうしたアンケート結果について、ＣＳ委員の中でも分析を行うとともに、井草中の先生方にも結果をお渡しし、次年度の学校経営計画に活かしていただくようにしています。

より詳細な結果をお知りになりたい方は、佐々木副校長までご連絡ください。

８　授業では、積極的に自分の意見をまとめて発表している

１年　計	37.0%
１年　男	36.5%
１年　女	37.5%
２年　計	53.8%
２年　男	60.7%
２年　女	45.1%
３年　計	58.3%
３年　男	56.4%
３年　女	60.7%
全　体	50.5%



井草中CS(コミュニティ・スクール)便り　第17号

2014年3月19日発行　CS広報部会

避難所宿泊訓練について

校長　　池田　武男

去る３月７日（金）及び翌８日（土）にかけて、以前よりお知らせしてまいりました「避難所宿泊訓練」（本来ならば「救援所」と呼ぶべきところですが、一般化している「避難所」という言葉を使っております）を実施いたしました。当日は、本校震災避難所運営連絡会（上井草自治会）の全面協力を得ることができました。自治会（町会）長の鈴木定雄様をはじめ本校震災避難所運営連絡会会長の遠藤強様、同会井草中学校避難所長の青木博巳様には、訓練中のご挨拶やご講話、訓練参加に携わっていただきました。特に青木所長には同宿までしていただきました。この方々以外にも約３０名もの同会会員の皆様ならびに荻窪警察署、荻窪消防署、荻窪消防団、杉並区危機管理室、等の方々のご支援を得ました。あらためまして感謝申し上げます。

今回の訓練は、①学校が行われている平日の午後、②生徒が在校中、③震度５弱以上の地震が発災、④生徒の保護者が帰宅困難で生徒の引き取りも困難、⑤仕方なく救援所である学校に宿泊、⑥そこで被災者を救助すべく数種の救助支援を実行、を想定しました。具体的には、炊出し訓練（アルファ米と豚汁づくり）、救護訓練（応急処置）、物資運搬（朝食用食料の買い出しと寝所づくり）、そして施設運搬（仮設トイレの設置とＤ級ポンプ訓練）を４班構成で実行しました。その訓練に先立ち、私から訓練の意義を伝え、それから東日本大震災の被災地へ派遣経験のある荻窪警察署員の方などから、貴重な経験談を聞きました。

生徒は真剣に懸命に訓練に参加しておりました。ただ単に避難する場所でしかない「避難所」と宿泊するための施設・物資・食料が蓄えている「救援所」の違いも分かりました。そして、救援所生活を実際に体験し、非日常的な生活を知ることができました。中には一睡もできなかった生徒もいましたが、生徒にとっては万が一の場合の貴重な経験となったはずです。そして、地域にとっても、この中学生のカー卒業後の若いカーが、予想される都市巨大地震に対する大きな備えとなることを確信いたしました。

翌朝、保護者の方々に引き取られて帰宅する生徒の表情には、緊急時の際には必ず手助けとなる覚悟も伺い知れ、成長を感じ取ることができました。公立中学校としては全都的にもほとんど前例のない、「授業の一環として行う宿泊を伴った防災教育」を無事実施でき、また一つ、地域と共に歩む学校を実感いたしました。

マンホールトイレ設置

豚汁作り

応急処置

お祝記念品の贈呈

落成祝賀会実行委員会の会合で何か記念になるお祝の品物をとの想いの中、学校側に希望を伺い、同窓会の賛同も得て、生徒の希望にそった素晴らしい「はっぴ」を新調する事が出来、一同大変喜んでいます。これを機会に、井草中学校の更なる発展と広報活動として数多く着用して頂ければと思います。
尚、故本多実行委員長の母校への想いも有り新調されました。

落成祝賀会実行副委員長
同窓会会長
小美濃正治

３月７日「感謝の集い」
３年生女子　ソーラン節

ISS 活動紹介

「井草サバイバルスピリッツ（井草魂）」…略して“ISS”です。平成 17 年１月にスタートして 10 年目を迎えました。ISS は現在大きく分けて２つの活動をしています。

（１）土曜日学校としての ISS

定期考査前の試験勉強では、学生ボランティアが自習する生徒質問に答えたり、勉強の仕方のアドバイスや講義を行ったりしています。そのほかにも、ボランティアのための大道芸・バンド体験、綿菓子製造など幅広い学びが特徴です。昨年度は 18 回に延べ 320 人の生徒が参加しました。

（２）地域ボランティアとしての ISS

地域のお祭り等にボランティア参加しています。昨年度は 11 のイベントに延べ 180 人が参加。どのイベントでも地域の方々に温かく迎えていただけることが大変ありがたいです。それに甘えず、「指示待ち人間にならない」などボランティア精神を忘れない活動を心がけています。

どちらの活動も先生方の協力を得ながらその都度参加生徒を募集しています。

運営スタッフは、この 10 年でおもに卒業生による学ボラさん 15 名ほどが参画してくれるようになりましたが、数名の大人スタッフはそれぞれ 10 歳齢を重ねました。この拙文を最後までお読みいただいたのもなにかのご縁です。生徒がお祭りで販売する綿菓子を買っていただくことから、もしできましたら運営に参画していただくことまで含めて、支援・応援していただければ幸いです。

上井草児童館
もちつき大会

ISS 実行委員
石黒康

地域の大人と　いろいろな関わり

3 年生（9 月開催）
「福祉体験授業」

2 年生（11 月開催）
「社会人講座」

3 年生（3 月開催）
「保育体験授業」

1 年生（2 月開催）
「音楽・お琴教室」

3 年生（3 月開催）
「社会人講座」

リレーエッセイ　―井草中探訪―

井草中学校
地域連携担当

主任教諭
猪口正和